

心の旅「鎮魂と平和」

[4] 縁は過去にも未来へも

内藤恵子（愛知県半田市）



（2017年3月14日唐丹町訪問 筆者：前列左から二人目）

唐丹希望基金に参加することになったのは、60年前からのいくつかの出会いのおかげと思っています。

東日本大震災後、毎日新聞「希望新聞」の伝言板に「食器を送ります」と投稿した時、それに応じてくれたのが唐丹町小白浜の方でした。両親亡き後、空き家になった実家の食器類をもらっていただけなのが有難く「支援」と言うより、私のほうが両親との死別の寂しさを慰めて頂きました。

堀泰雄さんとの運命の出会い、偶然 NHK ラジオ深夜便（2015年1月7日放送）を聞いた時でした。「ことばが広げる世界の絆」という題で堀泰雄さんのエスペラント語とのつながりについて話しているのを聞きました。その時私は、小学生の頃、国語の教科書でエスペラント語を作ったザメンホフの伝記を読んだ事を思い出しました。また、堀さんは東日本大震災教育支援活動「唐丹希望基金」にも参加していることも話し、震災直後 釜石市唐丹町小白浜の方に食器を送った事を思い出しました。不思議なことに、その後、堀さんと何度か会う機会に恵まれ、手繰り寄せられるように「唐丹希望基金」「高館千枝子さん」とも繋がり、唐丹の子供支援に加わる事にしたのです。

「岩手」が心に残っていたのも60年前、宮沢賢治の童話との出会いがあったからです。中学生になって「風の又三郎」「銀河鉄道の夜」などで岩手県出身の宮沢賢治を知りました。同じ頃、半田市出身の新美南吉の童話も読むようになりました。その後、南吉の作品を世に送るために、岩手県出身の巽聖歌（たつみ せいか：1905年、明治38年2月12日、岩手県紫波郡日詰町現在の紫波町に生まれる。）の尽力があった事を知り、南吉の故郷の愛読者として有難く思うようになりました。

私が「唐丹希望基金」とのつながりは、エスペランチストであり唐丹希望基金副代表 堀 泰雄さんと知り合ったことで、唐丹と岩手との縁が生まれ、さらにエスペラントを知ることができたからです。小学生だった私が、60年の時を経てエスペラントを学ぶ機会に恵まれたのです。世界に役立つエスペランチストにはなれないかも知れませんが「遅すぎることはない!」、11歳の少女の夢が60年の時を経て71歳の楽しみになったのですから、私の人生の大切なご縁です。更に嬉しいことに、堀さんが新美南吉の童話を、エスペラントに翻訳して下さる事になりました。

岩手の宮沢賢治・^{たつみせいか} 巽 聖歌、半田の新美南吉、そして堀 泰雄さんとの出会い。いくつもの出会いが未来へとつながっているのが本当にうれしいです。未来へと続く縁、それは、エスペラント訳南吉童話が世界へと広まり、世界中の子供たちに愛されるようになる事です。この思いを持ち続け、忘れず、唐丹の子供たちとつながっていきたいと思います。

※ 参考資料

【新見 南吉】

新美南吉は大正2年7月、愛知県知多郡半田町(現在の半田市)に生まれました。幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送り、長じてからは健康に恵まれず、初めての童話集を自宅で療養しながら「狐」「小さい太郎の悲しみ」「疣」を執筆。未発表作品を巽聖歌に送り、出版を依頼。3月22日、喉頭結核のため永眠。29歳7ヶ月。法名釈文成。<http://www.nankichi.gr.jp/Nankichi/syogai.html>

たつみ せいか

【 巽 聖歌】

巽 聖歌(たつみ せいか、1905年2月12日 - 1973年4月24日)は、日本の児童文学者、歌人。本名は野村 七蔵(のむら しちぞう)。童謡「たきび」の作詞者として知られる。

また新美南吉を世に送り出すことに尽力した。『赤い鳥』出身の童謡詩人・『多磨』出身の歌人として、童謡・少年詩・近代短歌の歴史の上に業績を残した。

[https://www.bing.com/search?q=%E5%B7%BD\(%E3%81%9F%E3%81%A4%E3%81%BF\)%E8%81%96%E6%AD%8C\(%E3%81%9B%E3%81%84%E3%81%8B\)&form=IE10TR&src=IE10TR&pc=EUPP_MALNJS](https://www.bing.com/search?q=%E5%B7%BD(%E3%81%9F%E3%81%A4%E3%81%BF)%E8%81%96%E6%AD%8C(%E3%81%9B%E3%81%84%E3%81%8B)&form=IE10TR&src=IE10TR&pc=EUPP_MALNJS)

【宮沢 賢治】

宮沢 賢治(みやざわ けんじ、正字: 宮澤 賢治、1896年(明治29年)8月27日 - 1933年(昭和8年)9月21日)は、日本の詩人、童話作家。 仏教(法華経)信仰と農民生活に根ざした創作を行った。

作品中に登場する架空の理想郷に、郷里の岩手県をモチーフとしてイーハトーブ(Ihatov、イーハトヴあるいはイーハトーヴォ(Ihatovo)等とも)と名付けたことで知られる。彼の作品は生前ほとんど一般には知られず無名に近く、没後、草野心平らの尽力により作品群が広く知られ、世評が急速に高まり国民的作家となっていく。そうした経緯もあって日本には広く愛好者が存在する。

<https://history-men.com/miyazawa-kenji/>